

いのちと健康を守る活動

「母子ともに健康です！」の声をもっと聴きたい

<PIHS 代表ナプサさんの報告から>

11月4日付

* ついに保険適用医療機関になった。次の課題は未加入産婦対応

10月16日付で、正式にフィリピン健康保険公社 Phil Health/フィルヘルスの適用医療機関となった。一方で、受け入れ産婦には保険未加入者が多く、各2,500ペソ(約5,000円)ほどの謝礼が収入で、ここ20日間の収入は12,500ペソだった。有資格助産師1名分給与は月2万ペソのため、不足分はHANDS 支援で賄った。

* 保険加入者5名の予約が入っている11-12月に期待

11月から12月にかけては、保健加入産婦5名の予約が入っていて、8,000 × 5通常分娩で40,000ペソの収入を見込んでいる。これで少なくとも有資格助産師2名の1か月分給与はカバーできる。

* コミュニティー・ベースの研修活動の再開を

ここ2年程、時間、資金ともに助産所開設のために費やしてきた。今後は助産施設活用率を高め、母子の死亡率を下げるための啓蒙活動、特に保険加入推進や栄養衛生研修を再開、充実させていきたい。

1月6日付

* 今月分の医療スタッフ3名、事務スタッフ3名の給与は借入金で

本日時点で保険加入者の出産予約は数件で、1月15日、30日の月2回の給与支払い不足分については借り入れもやむなしと考えている。月に15件の保険適用出産介助があれば採算がとれる見込みで、半年後には達成の予定。

上記報告を受けて、当面の助産師給与補てん用にと、12月のうち寄せられた助産所支援金(クリスマスほか特別寄付)を年明け7日に送金させていただきました。(事務局)

<助産所の医療スタッフ>



助産師のアヘイマさん、サラリンさんと、看護師のナプサさん(右)



保険未加入の母親から生まれたキアンパ町のパルテちゃん(左)、ジェネラルサントス市のゴメスくん(右)。いずれも9月に誕生、母子ともに健康でした!



保険適用助産所になり、保健省主催の各種研修に参加できて嬉しいというナプサさん(右)とサラリンさん。今回のテーマは「新生児の先天性異常発見の方法」でした。

<私たち HANDS の今後のかかわり方、支え方>

「出産時母子の死亡率ゼロ」を目標に掲げた助産所開設は、同時に出産介助保険収入という自主財源を得て、PIHS が資金面での自立に向けて歩み出しました。しかしこれまでも随時お伝えのように、保健省や医療保険公社認可取得は非常に困難な道のりでした。建築費のほか医療スタッフ人件費を含む運営費も予想を大幅に超えています。また、貧困世帯に多い自宅出産の危険を減らすことを目的としながら、貧しい家庭ほど保険未加入が多いのも事実で、当面は保険収入も限られています。

私たちとしては、貧困世帯の保険料無料手続きを進めるなどの地域活動に対して、また、助産所運営について、1-2年間は医療自立会費を充当して支える必要があります。皆様のご協力をお願いいたします。

コミュニティ・ベースの活動資金事業 ヤギプロジェクト報告



前号でも触れたヤギプロジェクトは、すでに、雌6匹(うち3匹は妊娠中)雄4匹を購入、その小屋も完成しました。課題であった水道についても、ヤギ支援と同じ会員のご協力でももなく工事が開始されます。実施地区は30m四方の敷地で草地が広がっていて、鶏の飼育も始まりました。近い将来には、各種果樹や薬草栽培を含む総合的農場づくりをと、期待が膨らんでいます。コミュニティ・ベースの研修財源だけでなく、助産所運営の補助的財源となるかもしれません。(写真はヤギの世話役アトンさんとお孫さん)

前号でお知らせの車いす寄贈は、運搬をお願いする予定の方の渡航がキャンセルとなり、今回は3月末以降になる予定です。